

## 水性ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)

## 1. 適用範囲

工事名：  
 工事場所：  
 施工業者：  
 塗装業者：  
 特約店名：

## 2. 材料

水性 V<sub>A</sub>TON<sup>FX</sup> 各色 F☆☆☆☆ O01222  
 水性 V<sub>A</sub>TON<sup>FX</sup> フロアーNY (艶有り、半艶消、全艶消) F☆☆☆☆ O01228

## 3. 施工部位

内装木部

## 4. 工程

工程	種別		塗料その他 製品名	塗付け量 (kg/m <sup>2</sup> ) 1 液形	乾燥時間 (23℃)
	A 種	B 種			
素地ごしらえ	○(注)1		新設時：18.2.2 による、改修時：7.2.2 による	—	—
1 着色 (注)3	○		水性 V <sub>A</sub> TON <sup>FX</sup> 各色	0.03	24 時間以上 ※(注)
2 ふき取り (注)2	○		全面白木綿布片でふき取る。	—	
3 下塗り	○	○	水性 V <sub>A</sub> TON <sup>FX</sup> フロアーNY 艶有り	0.05 (0.08~0.10)	16 時間以上
4 研磨紙ずり	○	○	研磨紙 P240~320	—	—
5 中塗り	○	—	水性 V <sub>A</sub> TON <sup>FX</sup> フロアーNY 艶有り	0.05 (0.08~0.10)	16 時間以上
6 研磨紙ずり	○	—	研磨紙 P240~320	—	—
7 上塗り	○	○	水性 V <sub>A</sub> TON <sup>FX</sup> フロアーNY 各艶	0.05 (0.08~0.10)	—

- (注) 1. 18.2.2 木部の素地ごしらえ、7.2.2 木部の下地調整の種別は、塗料その他の欄による。  
 2. 工程 1 の適用及び着色に用いる塗料の種類は、特記による。  
 3. 改修時、新規に塗装を行う場合は、7.2.2 木部の下地調整に代えて、7.3.2 木部の素地ごしらえを行う。

## 5. 注記

- 本仕様は、公共建築工事標準仕様書(令和 7 年度版)に基づいた仕様です。
- 着色及びふき取り工程の適用は特記(特別記載)によります。着色が必要な場合のみ適用して下さい。  
 使用塗料等の詳細は別途、弊社へ相談して下さい。
- 改修時、既存塗膜があり、着色工程を適用する場合は表 7.2.1 木部の下地調整の RA 種(既存塗膜の全面除去)を適用して下さい。また、改修時、既存塗膜が他種塗料の場合も表 7.2.1 木部の下地調整の RA 種(既存塗膜の全面除去)を適用して下さい。
- 上記塗布量は公共建築工事標準仕様書(令和 7 年度版)のウレタン樹脂ワニス塗りの塗付け量です。  
 床面に塗装する場合、( )内の塗付け量を推奨します。また、滑り止めが必要な場合は、艶有りを推奨致します。
- 乾燥・塗り重ね時間は、温度・湿度等の条件により異なります。5℃以下や多湿時の塗装は避けて下さい。
- 水性 V<sub>A</sub>TON<sup>FX</sup> は原液で使用して下さい。水性 V<sub>A</sub>TON<sup>FX</sup> フロアーNY は基本的に原液使用です。  
 希釈する場合は、水道水を使用して下さい。
- 乾燥・塗り重ね時間は、温度・湿度等の条件により異なります。5℃以下や多湿時の塗装は避けて下さい。
- 艶消仕上げの場合は水性 V<sub>A</sub>TON<sup>FX</sup> フロアーNY 半艶消または全艶消を使用して下さい。
- 水性 V<sub>A</sub>TON<sup>FX</sup> の乾燥が不十分だと、密着不良を誘発する恐れがありますので、塗装後は拭取りを推奨致します。
- 製品詳細は、製品カタログや SDS 等を参照して下さい。